

平成15年度中間期（平成15年9月期）決算に関する主な質疑応答

本日発表致しました平成15年度中間期（平成15年9月期）の業績に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。決算発表記者会見や投資家説明会等における主な質疑応答は、後日掲載する予定です。

1. 平成15年度中間期 SMBC 収益関連

Q. 業務純益の前年同期比増減要因について説明して下さい。

A. 業務純益は4,993億円と前年同期比788億円の減益となりました。これは、14年上期に内外金利低下を捉えたオペレーションにより高水準となっていた市場営業部門収益の反落により、業務粗利益が前年同期比1,080億円減益となる一方、経費においては人員削減などの効果から2,960億円と前年同期比で292億円改善したことによります。

Q. 経費削減の状況はどうか？

A. 15年上期の経費については半期で2,960億円と前年同期比で292億円削減しました。これは、人員の削減効果、14年度の店舗統合・システム統合完了に伴う削減効果の実現によるものです。国内有人店舗については15年3月末時点ですでに統合計画をほぼ完了、15年上期中に3カ店を統廃合、1カ店を新設し、15年9月末では435ヶ店の体制となっています。また、人員削減についても計画通り進行、4月に727名の新卒者を採用しましたが15年9月末の従業員は23,838人となりトータルで186名の減員となっています。

Q. 貸出金の利鞘改善の進捗状況について教えて下さい。

A. 昨年度来、融資慣行見直しの一環として貸出利鞘の改善に取り組んで参りました。特に中核となる中堅・中小企業向け融資については、既存先への対応に加え、利鞘の厚い新型リスクテイク貸出を15年上期だけで1兆2,580億円取扱うなど積極的に対応致しましたが、高格付先に対する貸出競争が激化したこと、相対的に高利鞘である問題先宛貸出の圧縮を推進してきたことから、前年度末比の改善幅は小幅に止まりました。

2. SMBC アセットクオリティ関連

Q. クレジットコストは3,594億円と、15年5月の決算発表時の当初計画である3,000億円を約600億円上回っていますが、その要因や内訳を教えてください。

A. 不良債権問題の抜本的解決に向け、16年度末迄に不良債権を半減させるという目標を前倒しで達成すべく処理を従来以上に加速させたことがクレジットコスト上ぶれの要因です。また、当行は劣化防止への取組みを強化してきており、債務者区分の改善等ポートフォリオの改善傾向が現れ始めている一方で、デフレ環境が完全に回復したとはいえない現況下、当初想定を上回る劣化が生じた部分もありました。

クレジットコストの内訳は、オフバランス化コストが約1,100億円、劣化コスト等で約2,500億円です。

Q. 要管理先・要注意先への引当率はどのような状況ですか？

A. 要管理先全体に対する引当率はアンカバー対比30.5%と前年度末比で3.2%減少しました。これは相対的に引当水準の高い先の処理が進んだことによります。尚、その他要注意先の債権に対する引当率は、アンカバー対比12.2%と前年度末比で0.6%減少しました。

Q. 金融再生法開示債権残高の減少要因について教えてください

A. 15年度・16年度を不良債権処理の「集中処理期間」と位置づけ、不良債権の前倒し削減に注力した結果、15年9月末の開示債権残高は3兆8,666億円と、1兆3,947億円の削減となり16年3月末の目標を半年前倒しで達成致しました。これは、経済情勢好転の兆しの一部に見えてきた環境下、債権売却等のオフバランス化を引続き進めるとともに、要管理先等では企業再生に積極的に関与し区分の改善を図ってきたこと、また予てより強化してきた劣化防止の取組みが効果を上げてきたことによります。尚、内訳としては、危険債権以下が5,171億円、要管理債権が8,776億円減少しております。

3. SMBC バランスシート関連

Q. 貸出金の増減状況及びその要因について教えてください。

A. 15年9月末の貸出金は、前年度末比約2兆1,000億円の減少となりました。国内においては、住宅ローンや中堅・中小企業向けの新しいリスクテイク貸金などを積極的に取扱いましたが、企業の資金需要がキャッシュフローの範囲内で賄われるケースが引き続き多かったことや、問題先債権圧縮も喫緊の課題として積極的に取組んだことから、前年度末比約1兆7,000億円の減少となりました。また、海外においては、14年度に引き続き低採算アセットの削減を図ったことから前年度末比約4,000億円の減少となっています。

Q . 株式持合解消は進んでいるのですか？また、今後の方針はどのようなですか？

A . 15年度は期初において約7,000億円の保有株式の売却についてお取引先の承諾を得ておりましたが、上期中に約5,600億円分を売却し簿価圧縮を進めました。15年9月末現在、お取引先承諾済みで未売却の株式は約3,000億円ありますが、引続き株式市場への影響を極力排除しつつ売却を進めて参ります。中期的には、保有株式をTier 資本の半分以下に収めることを目標に圧縮を進めて参ります。

Q . 繰延税金資産の計上額はいくらですか？計上の基本的考え方を教えてください。

A . 平成15年9月末における繰延税金資産の計上額は、1兆7,117億円となりました。3月末比では、その他有価証券が含み益に転じた影響等で1,029億円減少しております。計上に際しては、昨年10月に金融庁より公表された「金融再生プログラム」や本年2月に公表された公認会計士協会の通牒の趣旨を踏まえ厳格に対応、計上の前提となる5年間の所得については、業務純益計画、不良債権処理見込み等の変動可能性を勘案し、必要なストレスをかけて保守的に見積り、実現可能な金額だけを計上しています。

4 . 平成15年度（平成16年3月期）SMBC業績予想関連

Q . 平成15年度の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）について教えてください。

A . 平成15年度の業務純益は1兆円と、本年5月に発表した当初計画と同様の水準を見込んでおります。前年度高水準であった市場営業部門収益の減少を、マーケティング部門収益の積み上げでカバーする一方、経費については当初計画対比50億円を更に削減致します。その結果15年度の業務純益は3年連続で1兆円の水準を維持することを見込んでいます。

Q . 平成15年度経費を前年度比 520億円削減し、5,950億円とするとのことですが、具体的施策を説明してください。

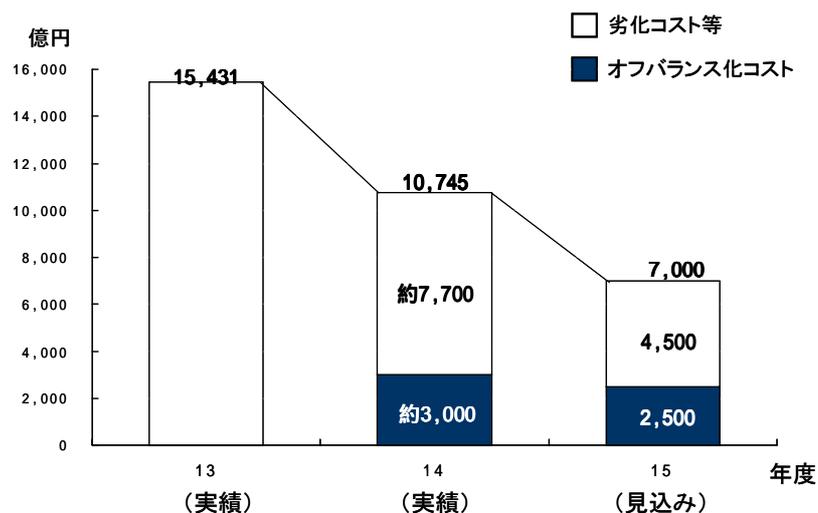
A . 具体的には、人員削減の継続、賞与の削減等により人件費の削減を致します。また、15年4月に情報システム部門を日本総合研究所に集約したことによるグループベースでのIT資源の有効活用・効率化の実現、14年度中に実施した店舗統合効果の実現やスペースマネジメントの継続、さらには資材調達の見直しなどを通じて物件費を削減してまいります。

Q . クレジットコストは、どの程度を見込んでいますか？

A . クレジットコストは、当初計画に500億円を上乗せし、約7,000億円を見込んでいます。オフバランス化に伴うコストを保守的に見積り2,500億円程度とみているほか、先行き不透明な景気動向をも勘案し最終処理に向けた引当の一段の強化への備えとして4,500億円程度のコストを見込んでおります。

こうした取組みにより、16年度末迄に不良債権比率を半減する目標を、確実に、且つ出来るだけ前倒しで達成していく考えです。

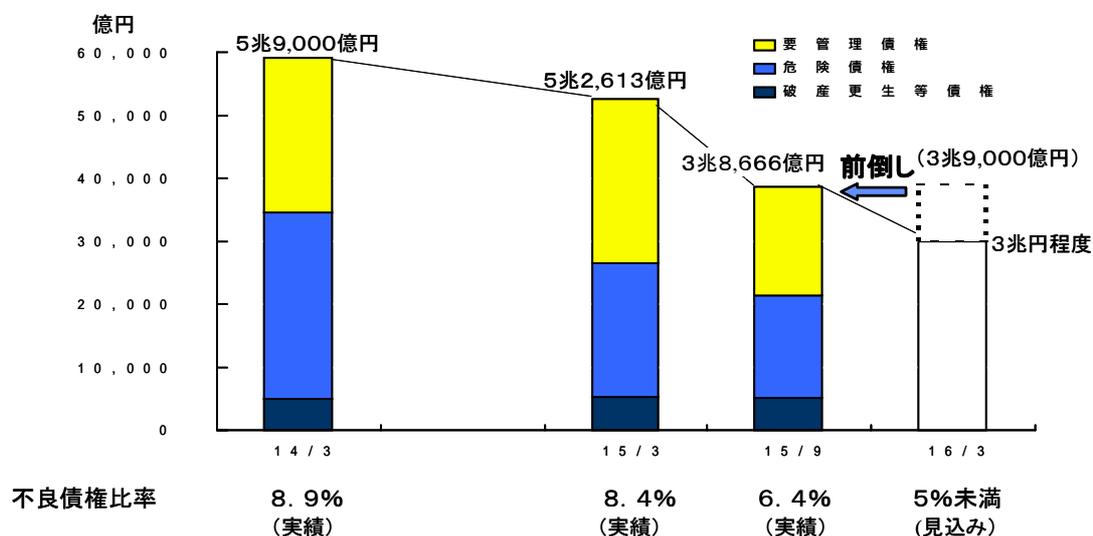
《クレジットコストの推移》



Q . 今後の不良債権削減計画について教えてください。

A . 当初計画では、15年度末の開示債権残高を3兆9,000億円としていましたが、16年度末迄に不良債権比率を半減する目標を前倒しで達成するべく注力した結果、15年9月末時点で既に3兆9,000億円を切る水準になっております。この下期においては、景気回復の兆しを背景に、従来よりは新規劣化が落ち着いてきていることもあり、債権売却等の従来からの手法に加え、投資銀行的手法の活用などあらゆる方策によりさらなる削減を図り、16年3月末には3兆円程度まで削減していく計画です。

《開示債権残高の推移》



5 . SMFG 関連

Q . S M F G 連結の業績予想を教えてください。

A . S M F G 連結の15年度業績予想は、経常利益で3,200億円、当期純利益で2,300億円を見込んでいます。尚、S M F G 単体の予想としては、営業収益550億円、経常利益500億円、当期純利益500億円を見込んでいます。

(以下、ご参考:「平成15年度中間決算説明資料」23ページ)

22 . 平成15年度業績予想

三井住友フィナンシャルグループ(S M F G)

【単体】 (金額単位 億円)

		15年度予想
営	業 収 益	550
経	常 利 益	500
当	期 純 利 益	500

1株当たり期末配当予想 (金額単位 円)

普	通 株 式	3,000	
第	一 種 優 先 株 式	10,500	
第	二 種 優 先 株 式	28,500	
第	三 種 優 先 株 式	13,700	
第	四 種 優 先 株 式	(第1~12回)	135,000
		(第13回)	67,500

<ご参考> (金額単位 億円)

配	当 金 予 定 総 額	464
---	-------------	-----

【連結】 (金額単位 億円)

	15年度予想		14年度実績	
		14年度比		
経	常 収 益	35,000	64	35,064
経	常 利 益	3,200	8,357	5,157
当	期 純 利 益	2,300	6,954	4,654

<ご参考>

三井住友銀行(S M B C)

【単体】 (金額単位 億円)

	15年度予想		14年度実績	
		14年度比		
業	務 粗 利 益	15,950	1,656	17,606
経	費	5,950	520	6,470
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)		10,000	1,136	11,136
経	常 利 益	2,000	7,972	5,972
当	期 純 利 益	2,000	6,783	4,783

与	信 関 係 費 用	7,000	3,745	10,745
---	-----------	-------	-------	--------

(注)一般貸倒引当金繰入+臨時費用に含まれる不良債権処理額。

以 上